



《報道発表資料》

～子育て中の母親と子育て未経験・経験済み男女の子どもがいる環境に対する意識調査～
困っている親子を見かけても「対応したことない」半数超え
近所の幼稚園・保育園建設の反対理由「子どもの声がうるさいから」が多数

子どもの健全な成長に寄与することを目的に教育玩具の輸入・開発・販売とあそび環境開発を行う株式会社ボーネルンド（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：中西弘子）では、長子が幼稚園または保育園に通っている子育て中の母親 412 人と、子育て未経験、もしくは子育てを経験し子どもが成人済みの 20～60 代の男女 620 人の計 1,032 人を対象に、「現代の子育て環境や子どもがいる場面に対する意識」について 4 月上旬にインターネット調査を実施しました。

当社では、5月5日の「こどもの日」を、子どもの健全な成長について大人全員が考える日とすることを提案し、社会全体が子どものあそびの大切さや子育て環境を見直すきっかけにしたいと考えています。今回はその一環として、子育て中の母親と、子育てを未経験もしくは経験済みの男女を対象に、子育て環境や日常で子どもがいる場面に対する意識について調査しました。近年、日本は少子化対策のために子育て支援の拡充に取り組んでいます。しかし、増設が進む幼稚園・保育園と近隣住民とのトラブルや、電車内のベビーカー使用是非などが社会問題化しており、子育てを温かく見守る環境が整っているとは言い難い状況です。そこで当社は、子育て中の母親と、子育て未経験もしくは子育て経験済みの両群で、子育てや子どもがいる環境に対して意識差があると考え、その実態を明らかにするために調査を実施しました。

【 調査結果のポイント 】

■ 子育て中の母親と子育て未経験・経験済み群の子育て環境に対する意識

- 子育て中の母親は、子育て未経験・経験済み群よりも、自身の周囲や日本社会は子育てに「寛容でない」と感じている
- ほぼ全員の母親が子どもとの外出には不安や不便を感じているものの、困っている親子を見かけたとき、子育て未経験・経験済み群では「対応したことが無い」が半数を超える

■ 子育て中の母親と子育て未経験・経験済み群の子どもが発する“音”に対する意識

- 6割以上が外出中に他人の子どもの声が気になったことがあり、公共の場でより高い傾向
- 近所の幼稚園・保育園建設反対理由では、子育て中の母親、子育て未経験・経験済み群ともに「子どもの声がうるさい」が最多

【 調査概要 】

調査方法：インターネット調査

調査地域：全国

調査対象：長子が幼稚園か保育園に通う母親と、子育て未経験もしくは子どもが成人済みの男女

有効回答数：合計 1,032 サンプル（長子が幼稚園もしくは保育園に通う母親 412 サンプル、子育て未経験もしくは経験済みの男女を①20代、②30代、③40代、④50代、⑤60代の5つの群に分け、それぞれ男女半数ずつ 620 サンプルの回答を得た）

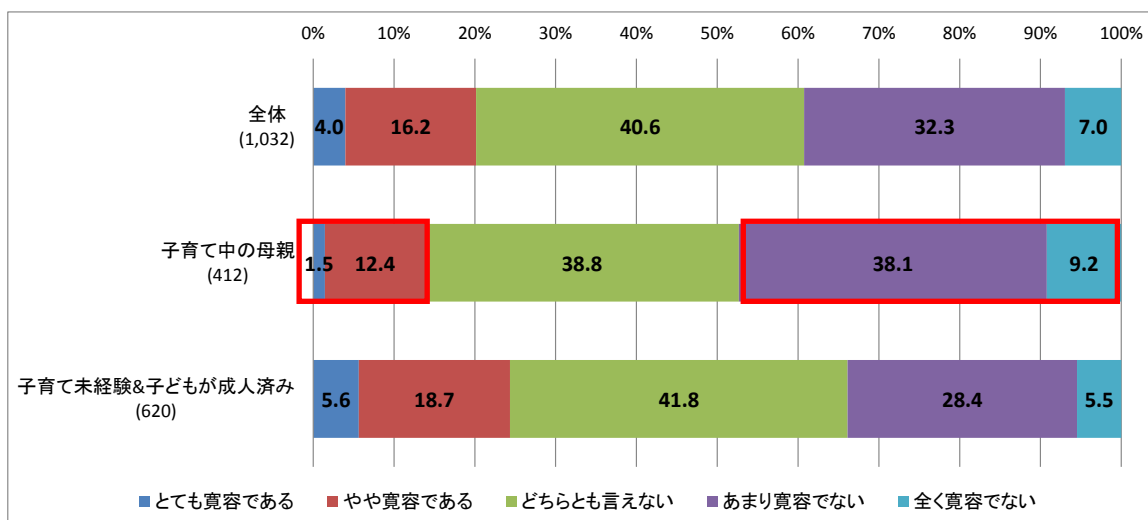
調査時期：2015年4月上旬

【 調査結果 】 ※構成割合は四捨五入をしているため、合計が 100 にならない場合があります。

子育て中の母親と子育て未経験・経験済み群の子育て環境に対する意識

～周囲や社会は子育てに「寛容でない」、子育て世代約半数～

Q. ご自身の周囲または現在の日本の社会は、子育てに寛容であると思いますか。



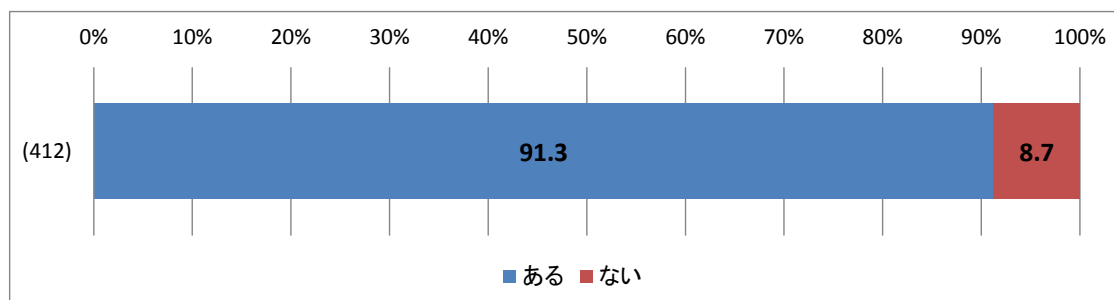
自分の周囲や日本社会が子育てに寛容とを感じるか尋ねたところ、子育て中の母親が「寛容である」と感じる割合は1割台と低く、およそ半数が「寛容でない」と感じている結果となりました。

また、身の周りや社会に対する要望の自由記述では、「育児休暇を取得しにくい」「子どもが活発に遊べる場所が少ない」「待機児童の対策をして欲しい」といった、子育て環境を理想通りに整えることができない現実や、日頃感じている不満を訴える声が多数見受けられました。日本政府は、男性の育児参加促進を盛り込んだ「少子化社会対策大綱」を決定するなど、国を挙げて子育て環境改善策を推進していますが、子育て世代が育児がしやすいと実感するには、課題が山積しているようです。

～子連れ外出で困っても8割が「1人で我慢」、

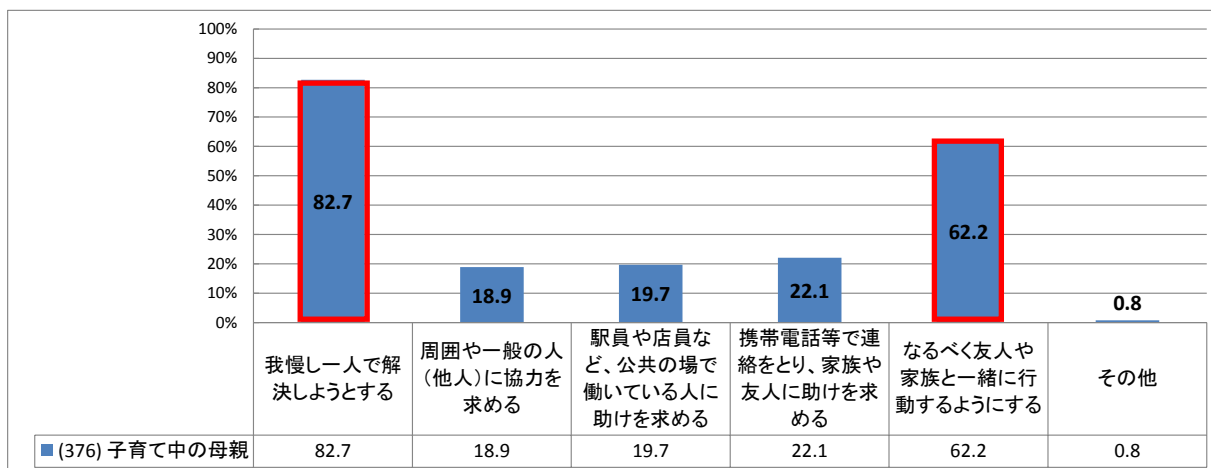
困っている親子を見ても子育て未経験・経験済みの半数以上が「対応したことない」～

Q. 子どもを連れて外出したとき、不安や不便を感じたり困ったりしたことはありますか。



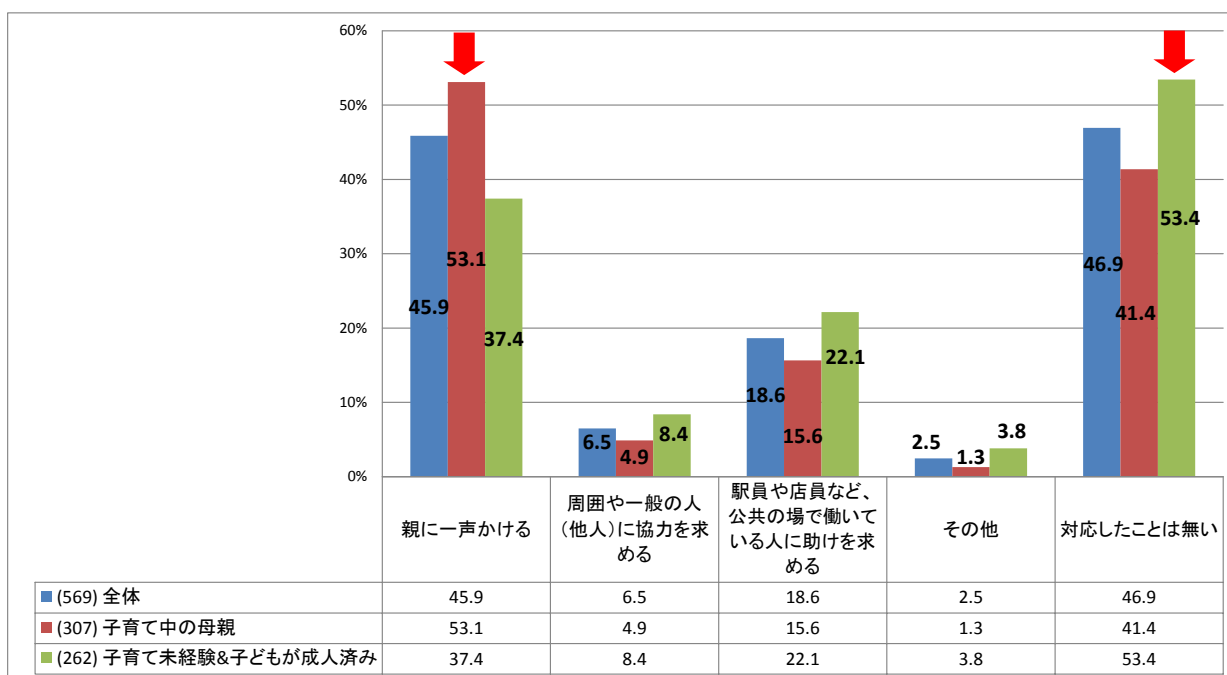
子育て中の母親へ、子どもを連れて外出したときに、不安や不便を感じたり困ったことはあるか質問したところ、9割以上が「ある」と回答しました。ほぼ全員の母親が、子どもを連れて外出で何らかの不安や不便を感じ、困った経験があるようです。

Q. 子どもと外出中に不安や不便を感じたり、困ったときは、どうしていますか。(複数回答)



前問で子ども連れの外出で困ったことが「ある」と答えた母親に、実際に困ったときはどう対処するか尋ねたところ、「我慢し1人で解決しようとする」が8割以上にのぼりました。自分1人ではどうしようもないときや、周りに手を貸してもらいたいときでも、周囲に協力を求めようとする人は少ないようです。また、「なるべく友人や家族と一緒に行動するようにする」と6割が回答。その場で他人にサポートを求めるよりも、身近で共感し合い助け合える関係性がある人と出かけることで、困る場面に備えていることが窺えます。

Q. 外出先で困っている子ども連れを見かけた際に、どのような対応をしましたか。(複数回答)

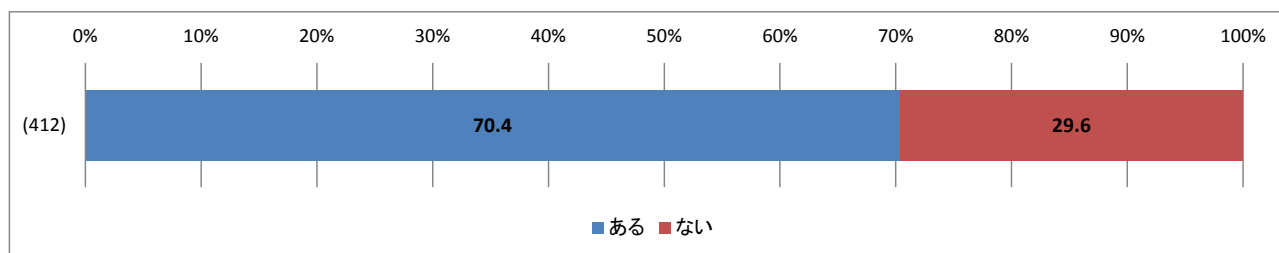


次に、外出先で困っている子ども連れを「よく見かける」「たまに見かける」とあらかじめ答えた回答者に、実際に困っている親子連れをみたとき、どのような対応をしたことがあるか尋ねました。この質問は、子育て中の母親と子育て未経験・経験者の差が顕著となり、子育て中の母親は「親に一声かける」が半数を超えていますが、子育て未経験・経験済みの男女では37%にとどまっています。「対応したことが無い」は、子育て中の母親が4割に対し、子育て未経験・経験済み群は半数を超える結果となりました。「その他」では、「声をかける勇気が無い」といった声も聞かれ、困っている親を見かけても、どのように声をかけて良いか分からず対処しかねているケースもままあると予想されます。前問も踏まえると、母親は周りに助けを求め、周囲は困っている親子を見かけたら一声かけるといった、双方が気軽に声をかけ合う社会とは言い難い現状が浮き彫りとなりました。

子育て中の母親と子育て未経験・経験済み群の子どもが発する“音”に対する意識

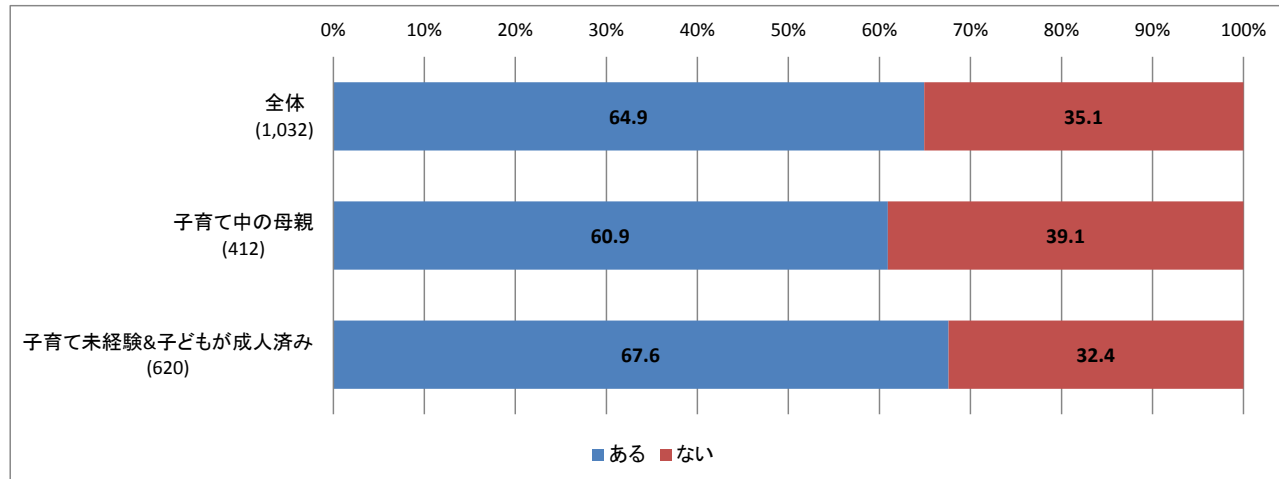
～子どもの発する音、公共の場でより気になる傾向に～

Q. 外出中や室内（家の中、保育園、幼稚園などを含む）にいる自身のお子様の言動で声や物音が気になったことはありますか。



まず、子育て中の母親に自分の子どもが発する声や物音が気になったことがあるか尋ねたところ、7割以上が「ある」と回答しました。多くの母親が日常的に自分の子どもの言動による声や音を気にしているようです。

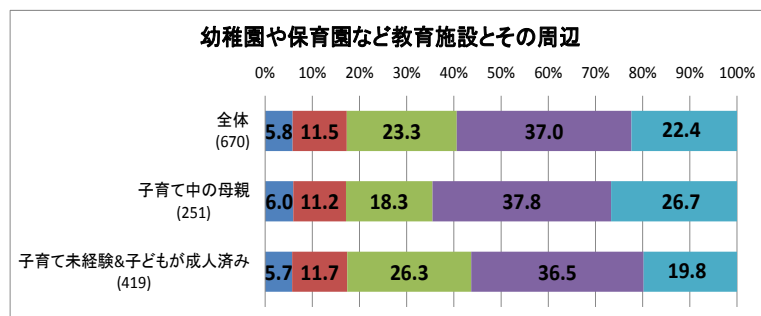
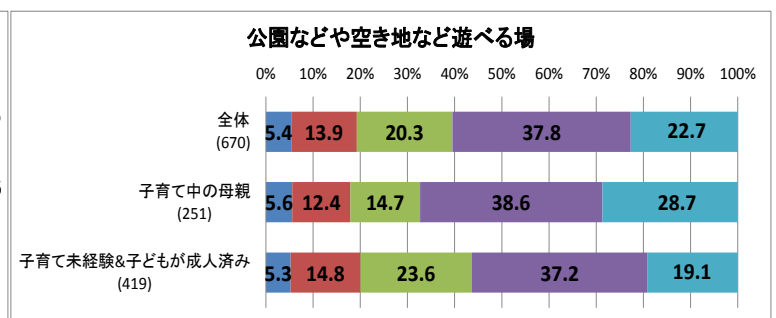
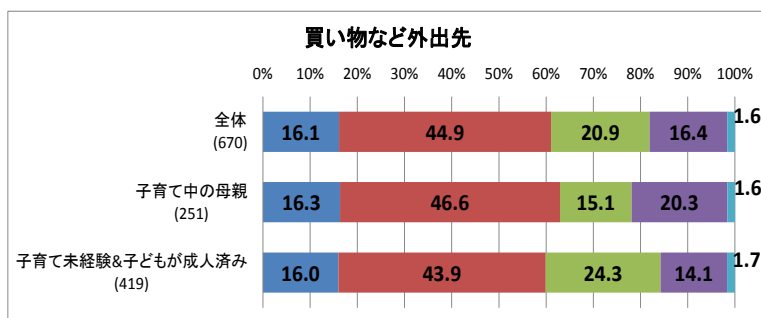
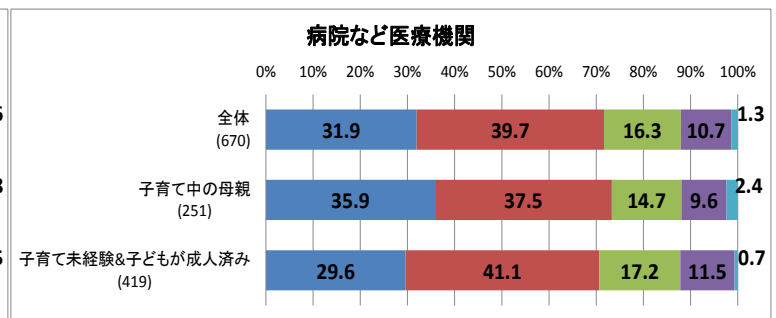
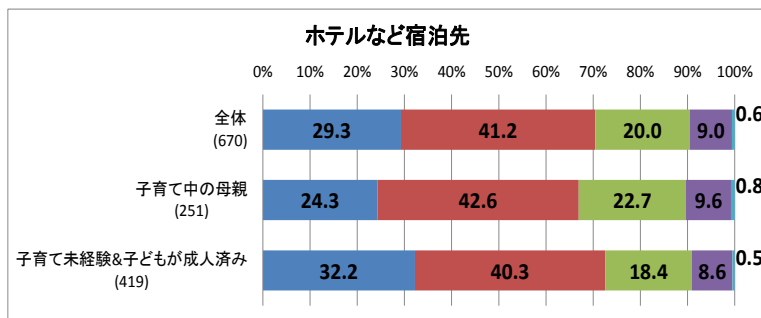
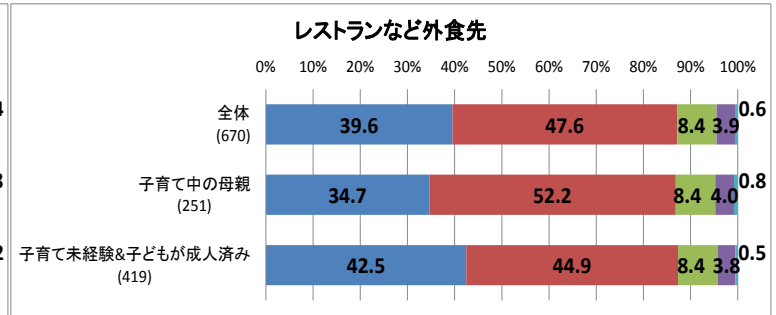
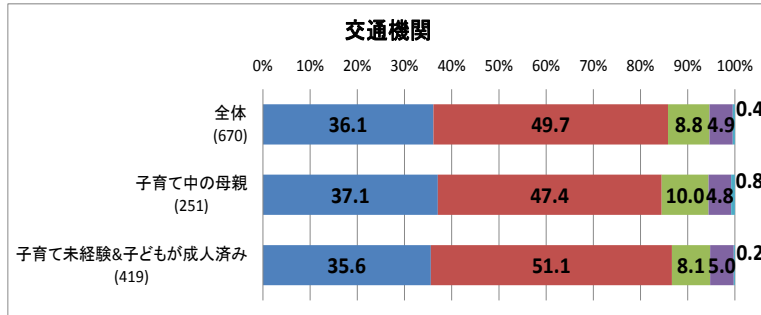
Q. 外出中や室内（家の中、保育園、幼稚園などを含む）にいる他人のお子様の言動で声や物音が気になったことはありますか。



次に、子育て中の母親と子育て未経験もしくは子どもが成人済みの男女へ、他人の子どもが発する声や物音が気になったことはあるか質問したところ、両群とも6割以上が「ある」と回答しました。前問と比較すると、子育て中の母親は自分の子どもが発する音の方を気にしている結果となりました。

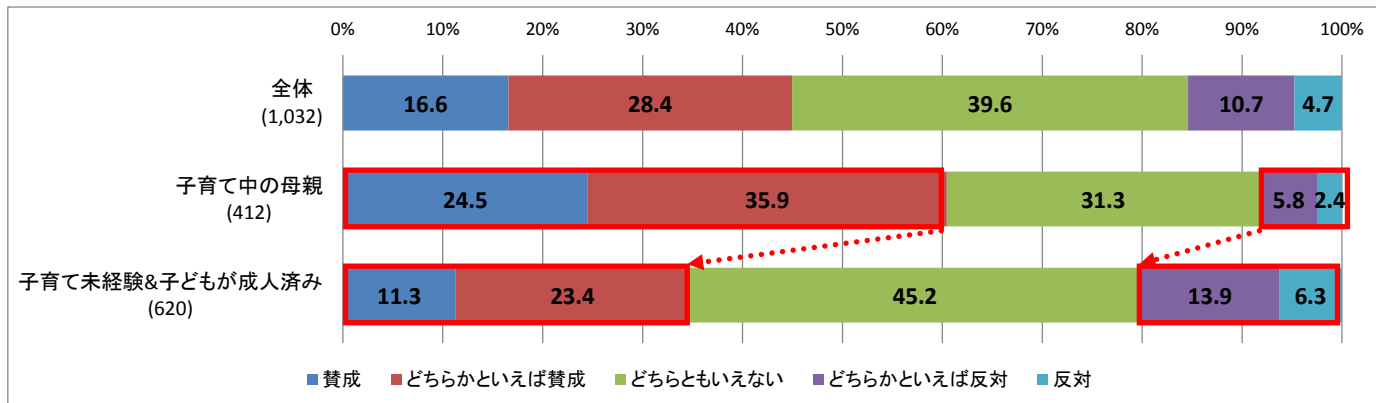
Q. 日常生活で他人の子どもが大きな声を発した際のご自身の気持ちを各シーンについて、それぞれお答えください。

■ とても気になる ■ やや気になる ■ どちらともいえない ■ あまり気にならない ■ まったく気にならない



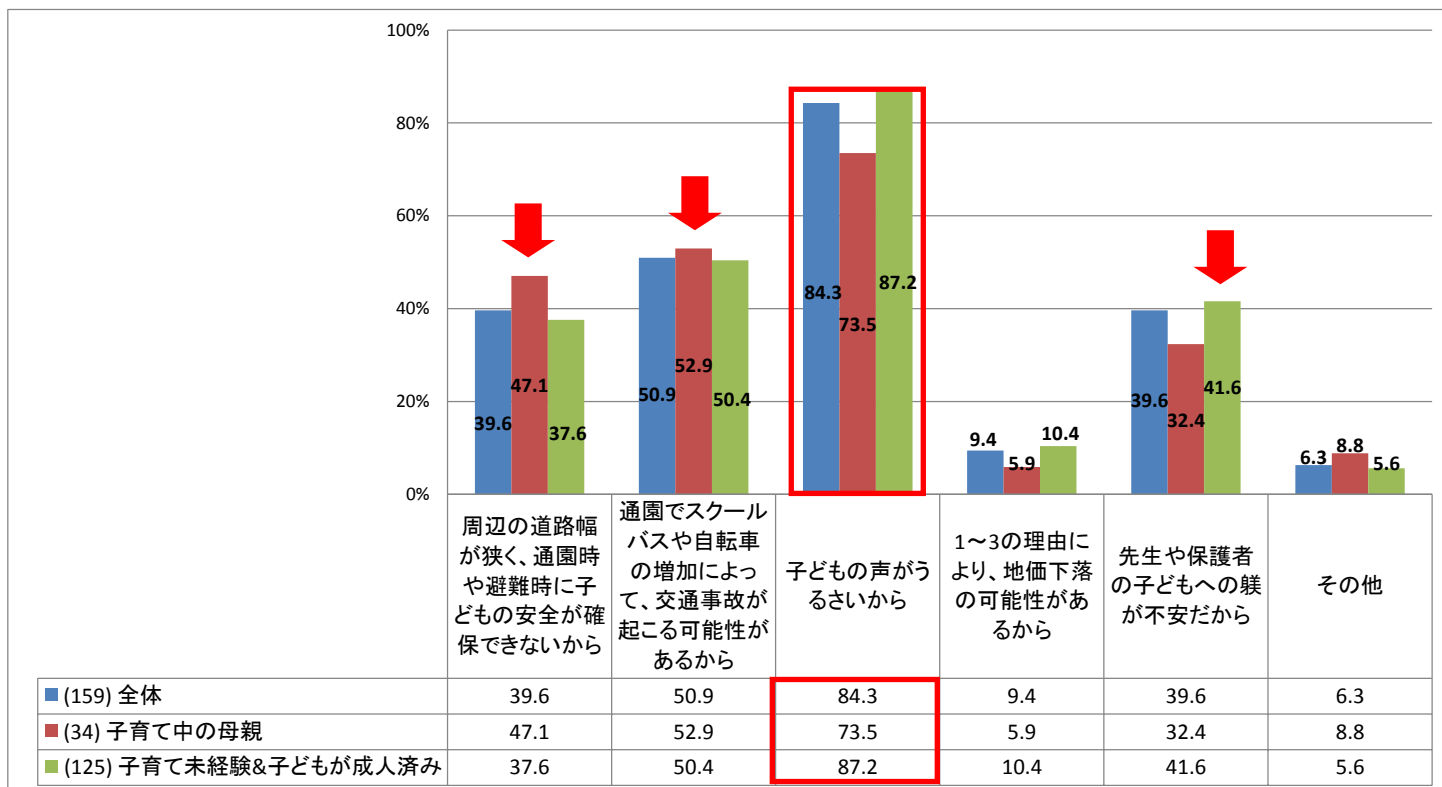
前問で他人の子どもが発する音が気になったことが「ある」の回答者へ、どのような場面で気になるかそれぞれ質問しました。交通機関やレストランなど外食先で8割以上、ホテルなど宿泊先で7割以上が、子どもの声が「とても気になる」「やや気になる」と回答しています。一方、公園などの遊び場や幼稚園、保育園といった教育施設周辺では、「あまり気にならない」「まったく気にならない」が半数以上となりました。この結果から、公園など遊び場や幼稚園・保育園といった教育施設など子どもが主体の空間では気にならないことが多く、子どもに限らず大人も日常的に利用する公共の場においては、子育ての経験の有無に限らず、子どもの声がより気になる傾向にあることが分かりました。

Q. 仮に、ご自宅の近隣に幼稚園・保育園ができると決まった場合、どのように感じますか。



近所に幼稚園・保育園ができると決まった場合、子育て中の母親は「賛成」「どちらかといえば賛成」が6割を占める一方、子育て未経験・経験済み群は3割にとどまる結果となりました。一方、「どちらかといえば反対」「反対」の割合は、子育て未経験・子どもが成人済み群が子育て中の母親よりも2倍以上となりました。現状における幼稚園・保育園の必然性の有無によって、両者の差が開いたと考えられます。

Q. ご自宅の近隣に幼稚園・保育園ができることについて、反対とお答えの理由は何ですか。(複数回答)



次に、近所の幼稚園・保育園建設が「どちらかといえば反対」「反対」とした回答者へ反対理由を聞きました。最も多い理由は「子どもの声がうるさいから」で、子育て未経験と子どもが成人済み群では9割近く、子育て中の母親でも7割以上が回答しています。他の理由と比較すると、顕著に高い結果となりました。群別に見ると、子育て中の母親は、通園や非難時における安全性の懸念を挙げる理由が全体平均より高い結果となりました。子育て未経験・子どもが成人済み群では、「先生や保護者の子どもの躰が不安だから」で子育て中の母親と差が開く結果となり、周りの大人の躰に対する懸念が多いようです。加えて、「その他」では「親の喋り声がうるさい」「保護者が路上駐車をする」といった、保護者のマナーを疑問視する声が複数見受けられました。幼稚園・保育園建設の反対理由は子どもの声に限らず、周りの大人の立ち振る舞いも看過できない一要因と言えるでしょう。

【 調査まとめ 】

今回の調査からは、子育て中の母親とそれ以外の群と比較すると、複数の項目で意識の差が見受けられる結果となりました。特に、周囲や社会の子育て環境、困っている親子を見かけた際の対応では違いが明らかになりました。子育て中の母親は、自身が経験中であるがゆえ子育てに関する気付きが日頃から多く、周りや社会が子育てに寛容でないと感じたり、困っている他の母親にも自然に手を差し伸べる割合が高くなったと窺えます。一方、子育て未経験・経験済み群では「親子にどう声をかけていいかわからない」といった回答が複数見受けられました。両者間で自然と声を掛け合う「助け合い」の精神が根付き、大人たちが皆で子育てを応援する環境が理想の社会ではないでしょうか。

ボーネルンドでは、今回の結果から、子育て世代が子どもを育てやすいと実感し、日本の未来を担う子どもたちが健やかに成長するためには、子育て中の世代に限らず、周囲の人々も子育てを温かく見守り、大人が皆で子育てをサポートする社会を推進していく必要性を強く感じました。近年は核家族化や社会コミュニティの希薄化、子育ての孤立化によって親が1人で子育てに思い悩むケースが多く見受けられます。当社では、子育ての現代的課題の解決策として、東京都八王子市や大阪府堺市などにおいて、行政や民間企業と協働して遊び空間を中心とした子育て支援の取り組みを積極的に展開しています。今後も多様な場所で自治体や他の民間企業と連携しながら、あそびを通じた子育て支援の取り組みを拡大・発展させてまいります。

【ボーネルンドについて】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健全な成長に寄与するため1981年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国86カ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約3万5千カ所まで拡大しています。また、2004年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。現在全国20箇所、年間243万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国32箇所、年間300万人以上の親子が訪れています。

近年は、あそび場を核とした子育て支援事業に積極的に取り組んでいます。八王子市の子育て支援施設「親子つどいの広場」の一つ「ゆめきっず」を、「キドキド」と隣接の施設として2012年から運営。親子への情報提供の充実や課題発見の迅速化など、総合的な支援サービスの向上を目指しています。本施設では、明星大学教育学部教授の星山麻木先生とも連携し、ワークショップなどを通して、子育てに悩む親をサポートしています。また、大阪府堺市、厚生労働省大阪労働局、株式会社高島屋と共に、堺市での子育て支援サービス事業実施に関する基本協定を2013年11月に締結し、堺高島屋9階の子育て支援フロア「キッズサポートセンターさかい」の整備・運営を堺市・高島屋とともに実施。隣接する堺マザーズハローワークと連携し、子育てと子育て中の女性等の就職も支援しています。子どもと保護者があそびを出発点に気軽に集い・交流し・相談できる場を提供し、子育ての不安を軽減するとともに、子育て環境の更なる充実に取り組めます。本事業は、民間企業・地方自治体・国が協働する子育て支援で、全国でも類を見ない画期的な取り組みです。



施設内イメージ

《報道関係の方のお問い合わせ先》	
株式会社ボーネルンド 広報室 担 当：村上 T E L：03-5785-0860 / 080-5901-3591 E-mail：y-murakami@bornelund.co.jp	株式会社プラップジャパン 担 当：五味淵、坪本、山口 T E L：03-4580-9104 E-mail：bornelund@ml.prap.co.jp
《一般の方のお問い合わせ先（ご掲載用）》	
株式会社ボーネルンド	TEL：0120-358-518